

【議第3号】

令和元年度高知県・高知市病院企業団決算

(注)計数を億円、百万円などの単位で処理している関係で不突合の場合がある

～ 収益的収支(3条収支)の状況 ～

【収益的収入】

(単位:千円)

款 項 目 節	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
1 高知医療センター事業収益	22,787,677	23,095,929	308,252
1 1 医業収益	18,285,933	18,530,923	244,990
1 1 1 入院収益	13,720,863	13,686,041	▲ 34,822
診療単価	82,217円	82,567円	350円
1日当たり患者数	457人	453人	▲4人
2 外来収益	3,879,478	4,190,646	311,168
診療単価	19,721円	21,648円	1,927円
1日当たり患者数	806人	807人	1人
3 その他医業収益	685,592	654,236	▲ 31,356
2 1 医業外収益	4,338,888	4,464,607	125,719
1 受取利息配当金	15,153	15,153	0
2 補助金	383,057	406,303	23,246
3 構成団体負担金	2,287,602	2,398,447	110,845
4 長期前受金戻入	1,269,599	1,412,191	142,592
5 その他医業外収益	383,477	232,513	▲ 150,964
3 特別利益	162,856	100,399	▲ 62,457

【総計】

(単位:千円)

	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
純 損 益	▲ 753,668	▲ 841,368	▲ 87,700
経 常 収 支	▲ 747,928	▲ 835,110	▲ 87,182
資 金 収 支	▲ 694,593	▲ 730,056	▲ 35,463

入院収益減少の主要因

新入院患者が減少しており、また、新型コロナウイルス感染症の影響により年度末に入院患者の制限や手術のキャンセルが生じたため

新入院患者数 H30年:13,593人 → R元年:13,413人
 平均在院日数 H30年:11.3日 → R元年:11.4日
 病床稼働率 H30年:73.7% → R元年:73.0%

外来収益増加の主要因

高額な抗がん剤の使用増加により診療単価が増加したため
 代表的薬品

- ①イミフィング点滴静注 H30年:20,172千円 → R元年:68,040千円
- ②テセントリク点滴静注 H30年:34,406千円 → R元年:69,704千円

【収益的支出】

款 項 目 節	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
1 高知医療センター事業費用	23,541,345	23,937,297	395,952
1 1 医業費用	21,804,276	22,378,082	573,806
1 1 1 給与費	9,991,969	10,242,788	250,819
退職給与引当金	238,845	392,585	153,740
賞与等引当金	545,329	599,771	54,442
引当金以外	9,207,795	9,250,432	42,637
対医業収益比率	54.6%	55.3%	0.7%
2 材料費	5,676,445	5,811,740	135,295
対医業収益比率	31.0%	31.4%	0.4%
うち 薬品費	3,420,854	3,508,092	87,238
対医業収益比率	18.7%	18.9%	0.2%
うち 診療材料費	2,214,996	2,265,868	50,872
対医業収益比率	12.1%	12.2%	0.1%
3 経費	3,939,216	3,803,710	▲ 135,506
対医業収益比率	21.5%	20.5%	▲ 1.0%
4 減価償却費	2,102,222	2,419,403	317,181
5 資産減耗費	32,624	47,626	15,002
6 研究研修費	61,800	52,815	▲ 8,985
2 1 医業外費用	1,568,473	1,452,558	▲ 115,915
1 支払利息及企業債取扱諸費	412,075	387,373	▲ 24,702
2 長期前払消費税償却	73,868	73,868	0
3 議会費	1,285	1,342	57
4 監査委員費	112	113	1
5 企業団管理費	2,243	4,634	2,391
6 雑損失	1,078,890	985,228	▲ 93,662
うち 控除対象外消費税額	928,126	879,400	▲ 48,726
3 特別損失	168,596	106,657	▲ 61,939
4 予備費	0	0	0

給与費【引当金】増加の主要因

退職給与引当金繰入額 153,740千円増
 基本給の増、勤続年数の増による期末時に備える全職員退職金の自然増及び
 公立病院で勤続年数が長い職員を割愛採用したため
 賞与引当金繰入額 54,442千円増
 会計年度任用職員の期末手当の繰入を開始したため

薬品費増加の主要因

高額な抗がん剤の使用増加
 代表的薬品
 ①イミフィング点滴静注 H30年:18,295千円 → R元年:63,216千円
 ②テセントリク点滴静注 H30年:31,879千円 → R元年:68,874千円

経費減少の主要因

修繕費
 X線装置管路取替修繕が前年と比べて少なかったことによる78,958千円の減
 管路取替 H30:4本 → R元:1本
 委託費
 検体検査業務についてプロポーザルにより契約金額が下がったことによる
 91,479千円の減少
 平成30年2月に更新した統合情報システムに付随するシステムの更新後1年
 間の保守無償による減少

～ 資本的収支(4条収支)の状況 ～

【資本的収入】 (単位:千円)

款 項 目 節	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
1 資本的収入	4,056,019	2,191,501	▲ 1,864,518
1 企業債	2,571,000	637,000	▲ 1,934,000
2 負担金	1,476,964	1,552,270	75,306
3 固定資産売却代金	0	0	0
4 補助金	8,055	2,231	▲ 5,824
5 寄附金	0	0	0

【資本的支出】

款 項 目 節	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
1 資本的支出	5,115,498	3,251,647	▲ 1,863,851
1 建設改良費	2,585,313	645,875	▲ 1,939,438
1 医療器械整備事業費	525,295	386,117	▲ 139,178
2 資産購入費	1,909,665	71,353	▲ 1,838,312
3 施設整備費	150,353	188,405	38,052
2 企業債等元金償還金	2,415,885	2,605,772	189,887
3 構成団体長期借入金償還金	114,300	0	▲ 114,300

1 建設改良費の主な内訳

1 医療機器整備費 386,117千円

移動式デジタル汎用一体型x線透視診断装置、一般撮影装置 等

2 資産購入費 71,353千円

適温配膳車 16台、診療費自動支払機更新作業委託業務 等

3 施設整備費 188,405千円

ナースコール設備整備制御系機器更新、医療用ガス供給設備機器更新 等

※H30決算:資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,059,479千円は、消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補てん

※R元決算:資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,060,146千円は、消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補てん

～ 資金収支の状況 ～

【資金収支状況】 (単位:千円)

資 金 収 支 状 況	H30決算①	R元決算②	元決算-30決算 ②-①
1. 前年度末内部留保資金	5,144,389	4,449,796	▲ 694,593
2. 当年度純損益(3条) 収益的収入-収益的支出	▲ 753,668	▲ 841,368	▲ 87,700
3. 現金を伴わない収支	1,118,554	1,171,458	52,904
4. 当年度資本的収支充当額 資本的収入-資本的支出	▲ 1,059,479	▲ 1,060,146	▲ 667
5. 当年度資金収支(2・3・4の計)	▲ 694,593	▲ 730,056	▲ 35,463
6. 当年度末内部留保資金(1+5)	4,449,796	3,719,740	▲ 730,056

3. 現金を伴わない収支 1,171,458千円の内訳

・長期前受金戻入 ▲1,412,191千円

・固定資産除却費 37,401千円

・減価償却費 2,419,402千円

・長期前払消費税償却 73,868千円

・4条控除対象外消費税 53,838千円

・その他雑収益 ▲203千円

・消費税資本的収支調整額 ▲657千円